

こんな(仮称)さつき学園になる! 第3回全体会で示された計画案

1階 地域が子どもを見守る、人の交流拠点

- ★小アリーナ・大アリーナ多目的室は一体的に使えるようにする。
- ★多目的室は100畳の畳が敷き道場にもなる。また、可動の仕切りで小さくもなる。

- ★搬入車は裏口から入る。

- ★ランチルームは中学生がみんな利用できる。

- ★隣接する住宅に配慮して緩衝緑地を設ける。

- ★吹き抜け下のエントランス広場はステージがあり、子どもの遊び場や発表の場にもなる。

- ★上階からの落下物に対する安全対策をする。

- ★児童クラブに遊具庫、ロッカーを設置する。

- ★さんあい広場や地域支援室、PTA室は入口近くに配置し、一体的に使えるようにする。
- ★和室や台所、テラスがあり、調理室とも連携できる。

- ★児童・生徒・夜間中学は、みんな正門から出入りする。

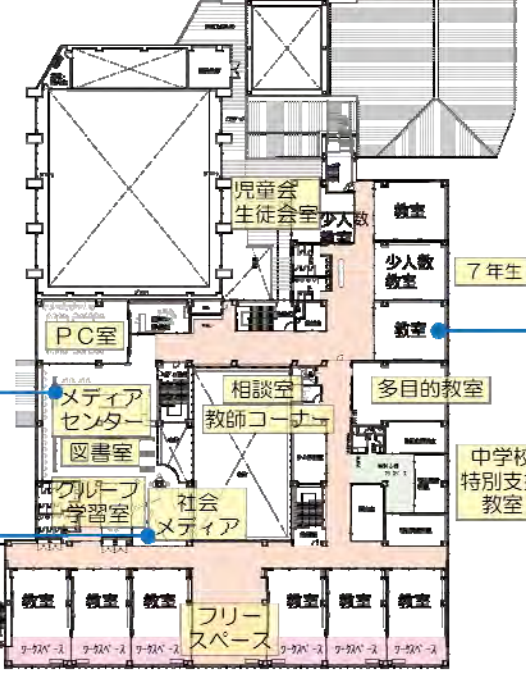
- ★保健室は授業もできるような広めにする。
- ★相談室、情報コーナーも配置。

- ★既存の樹木を残し、春日・第三中の思い出の場とする。
- ★ピオトープにもできる。

- ★歩道に接する学校の敷地の一部を歩道として整備し、安全で広い遊歩道とする。

3階 小学生と中学生がつながりまじりあう場

- ★メディアセンターは図書室、PC室、社会メディアコーナー、グループ学習室と一体的に利用できる。
- ★2Fメディアコーナーとも一体的な空間とする。
- ★5～7年生が可能性を広げるため社会メディアを配置する。



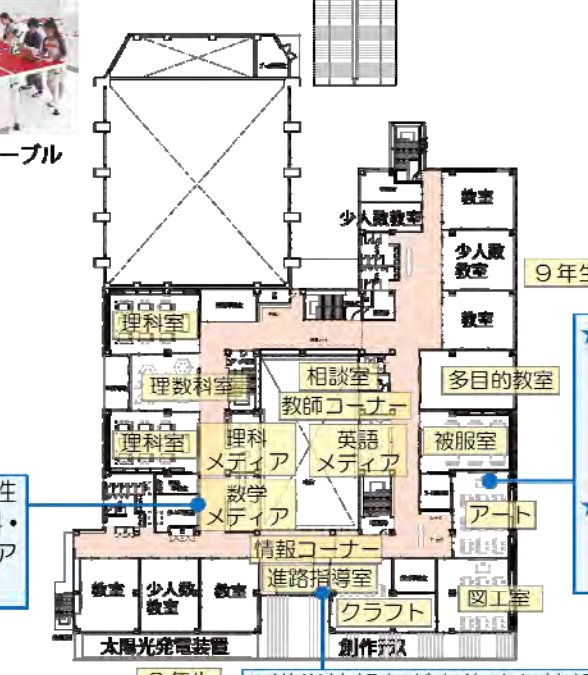
5～6年生

4階 自立への準備の場

- ★高さ可変実験台イメージ
- ★高さ可変テーブルイメージ

- ★7～9年生の教室は8m×9mとする。普通教室の間や近くに少人数教室を配置し、更衣室としても使えるようにする。

- ★8～9年生の専門性を高めるため、理科・数学・英語メディアを配置する。



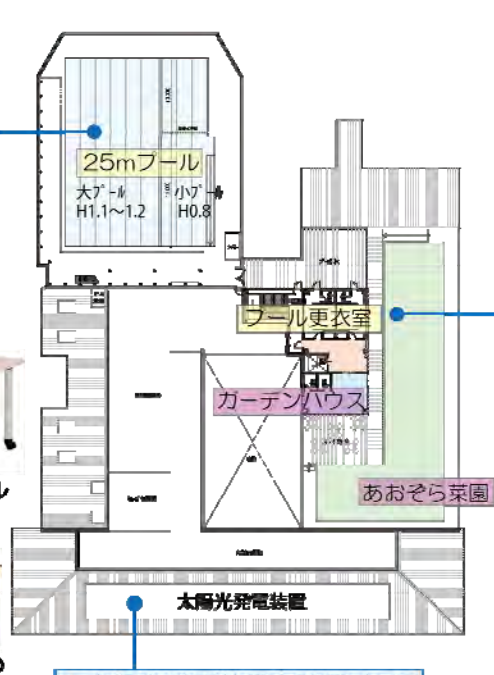
8年生

- ★進学情報などを集めた情報コーナーと進路指導室を配置する。

5階 地域交流と食育の拠点

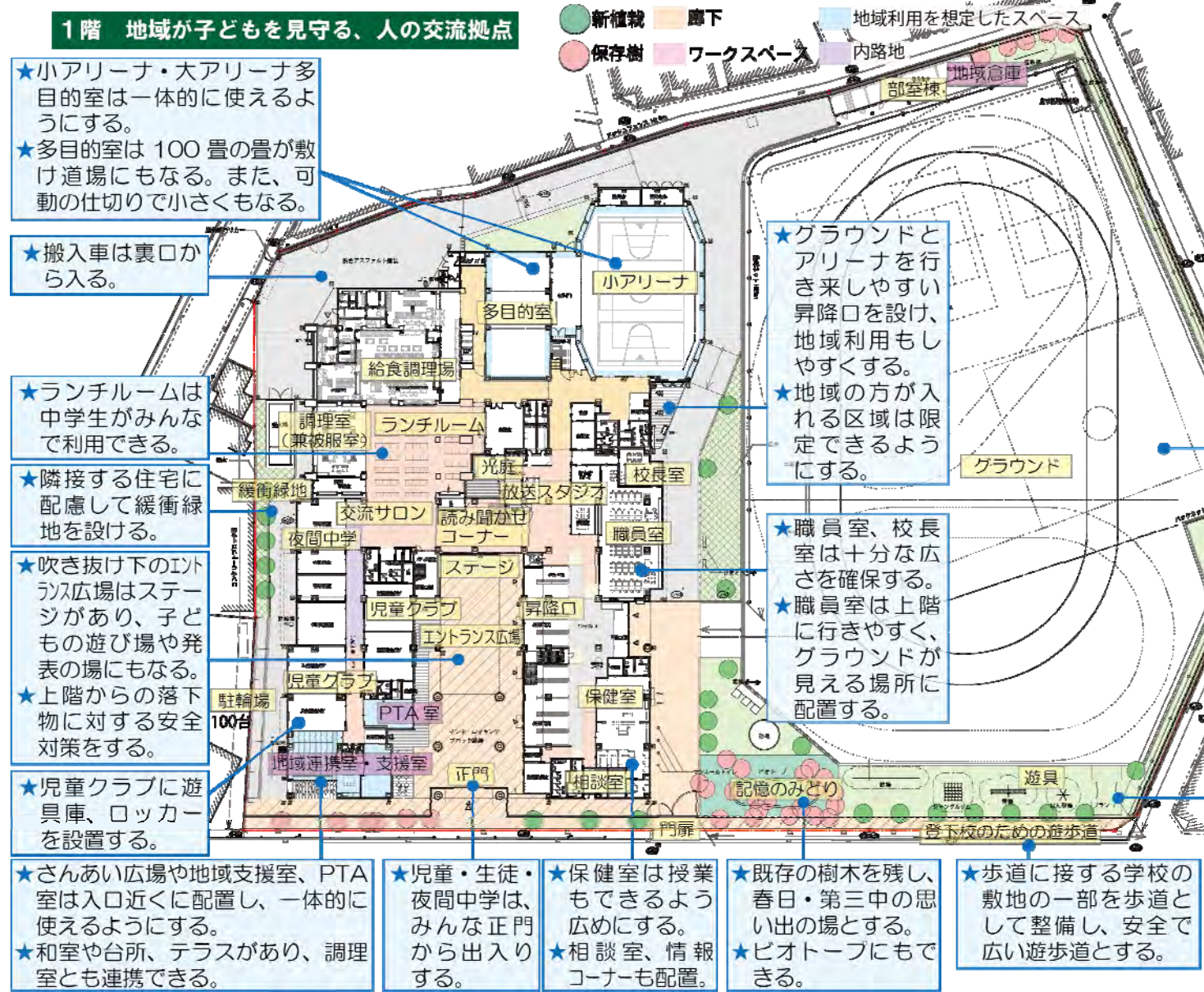
- ★深い(1.1～1.2m)大プールと浅い(0.8m)小プールに分け、小中で共用する。
- ★小プールには脱着式の壁を取り付け、10m程度の距離のコースも作れるようにする。

- ★アート教室とクラフト教室と図工室は一体的に配置し、創造性を高める空間とする。
- ★創作テラスは作品の乾燥などに使える。



③

- ★太陽光発電装置を設置する。



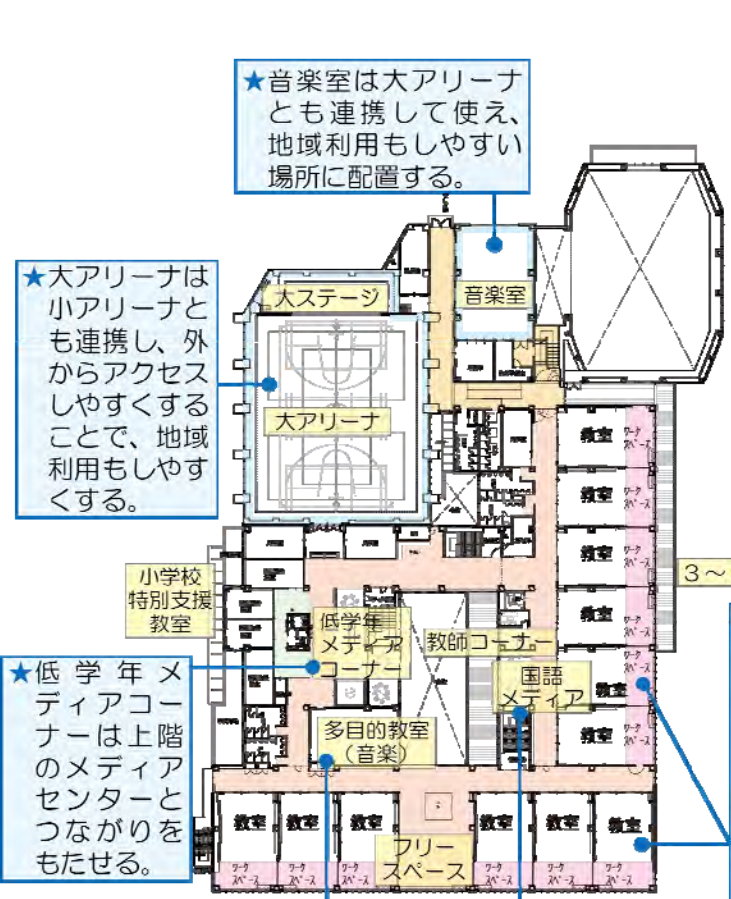
調理室は全学年対応の高さ調整の可能な机を配置する。ランチルームと一体的利用も可能。



- ★柔軟な利用ができるよう、できるだけ広く一体的なグラウンドとする。
- ★200mトラックや野球場が設定できる。
- ★仮設フェンスなどで区域を分けることができる。
- ★防球ネットは高さ15mのものをぐるりと配置。
- ★部室棟は校舎から見るとここに配置し、地域用倉庫も備える。

- ★遊具や砂場を配置。

2階 小さい子どもたちの「おうち」



- ★大アリーナは小アリーナとも連携し、外からアクセスしやすくすることで、地域利用もしやすくする。

- ★低学年メディアコーナーは上階のメディアセンターとつながりをもたせる。

- ★多目的教室は2～4階に配置し、遮音対応にする。

- ★低学年の基礎学習力を高めるため国語メディアを配置する。

- ★1～6年の教室は8m×10mと広めに確保し、外側にワークスペースを設け、教室だけではない学びもできるようにする。
- ★ワークスペースは教室間に扉があり、扉を開けると複数クラス合同の授業ができる。また、扉は防音に配慮する。

第3回全体会では、この計画案に対して以下のような意見がありました。

- 放送はグラウンドを見ながらできるようにする。また、グラウンドやアリーナにも放送設備があると便利。
- グラウンドに夜間照明はできないか?
- 収納は多めにしてほしい。
- 掲示スペースを多めにしてほしい。など

引戸のイメージ

高さ可変テーブルイメージ

木工・金工兼用の作業テーブルイメージ

ここから始める さつき学園づくり

第3回全体会では、学校と地域が一体となって、どんなことから取り組んでいくかを話し合いました。

地域と学校が一緒になってこんなことをしていこう！

●地域と学校で一緒に子どもを育てよう

- 体験、ふれあいを通じて心を育て、豊かな人間性と体力づくりをしていこう。
- 生活に根ざす生きた学習環境や教材をつくり、「学び方」を学べる環境をつくろう。
- 地域の人材を活用して体験型の学習体制を確立し、いろいろな人から学ぶ機会を設けられるようにしよう。
- 中学生が地域に関わっていく準備期間として、地域のことを学べるようにしよう。（商店街の人の話が聞ける日をつくるなど）
- 文化・芸術活動の強化・発展を軸としよう。
- テーマをもって学校と地域・子どもが繋がろう。（「日本の昔遊び」「中国語を学ぼう」など）
- 防災訓練を兼ねてBBQや炊き出しなどをしよう（地域防災を考える）
- 学校を大人の学びの場にもしよう。
- 中学生の活躍の場、居場所をつくろう。



これらのことを実現するために

学校ではこんなことをしよう

- 教育課程を十分に考え、地域連携のコンセプトをつくり、地域との協力方法を考えよう。
- 窓口となる先生が必要。ただし、先生は異動があるので、人が変わっても継続できるようにしよう。
- 小中夜間一体で考えよう。
- 地域、子どもに場所を提供しよう。
- 将来的には校区の再編も必要では？



地域ではこんなことをしよう

- 子どもを軸に地域の人がつながろう。
- 今ある活動はそのまま継続しよう（年間行事の継続など）
- 学習や部活のサポートをしよう。
- 子どもの安全を見守ろう。
- イベントを開催しよう。（子どもも巻き込んで）
- 学生や地域のいろいろな団体と児童・生徒の交流ができるようにしよう。（地域が結び）



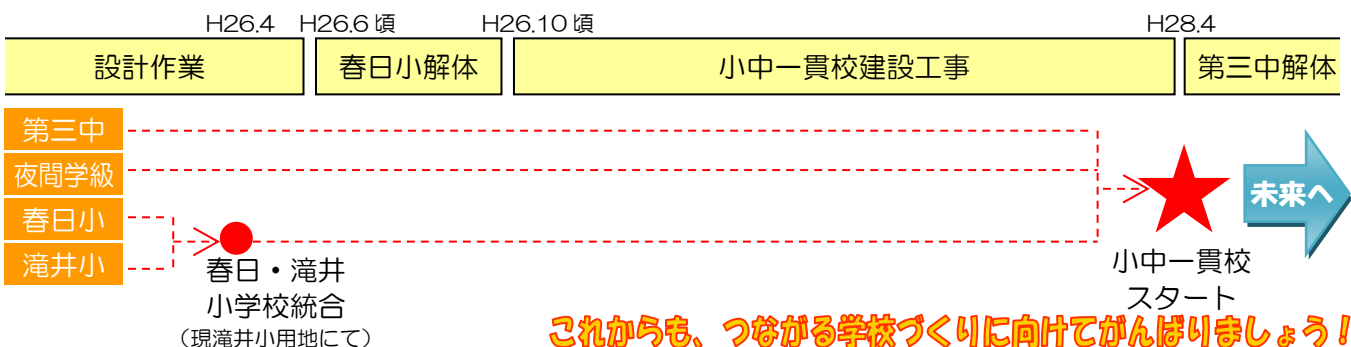
こんなこと仕組みで進めよう

地域と学校が一体となってすすめる仕組み

- ゆるやかにステップアップし、新しいつながりの形を模索していこう。
- 一体的にやるところと別々にやるところの仕分けが必要。
- 地域、学校、PTAが一体となったさつき学園運営委員会をつくろう。
- 学校づくりを支援してくれる地域の方を登録する人材バンクをつくろう。

今後の（仮称）さつき学園整備の流れ（予定）

H26年4月より春日・滝井小が統合され、H28年4月よりさつき学園がスタートします！



【問い合わせ】守口市教育委員会事務局 学校規模適正化 PT（担当 西村）